

「昭和大学大学院保健医療学研究科准教授 副島賢和先生講演会」

『ひとりじゃないよーぼくが院内学級のこどもたちに教えてもらった大切なこと』

昭和大学病院の院内学級の担任として、またホスピタルクラウン（病院などで心のケアをする道化師のこと）の活動をとおして重い病気と闘う子供たちと関わっている経験から、院内学級の子供たちの様子を語っていただきました。

「不快な感情にふたをしない」、「どんな感情があってもいい」ということを子供たちにも分かりやすく話していただき、また真剣に話を聞く子供たちの様子がとても印象的でした。そして子育てに悩んだとき、子供たちとぶつかったときに、それを乗り切るための様々なヒントを得られた素晴らしい講演会でした。

《参加保護者・地域の方々からのご感想・ご意見》

- とても素敵なお話をありがとうございました。普段目にする事のない世界、知りえない人の気持ちに少しだけ触れさせてもらい、自分の生きている世界、視野の狭さを痛感しました。先生の講演の中に、人の気持ちを想像する時間や思いを交換する機会があればよかったですと思います。
- 子供にちゃんと向き合っているか振り返ることができました。子供の感情をもっと受け止めていきたいと思います。
- 思春期の子供とのかかわり方を考えさせられました。ちょうど思春期の子供がいるので、とても参考になりました。
- 日々の生活に追われて一日が終わりますが、人としての根っこをしっかりとさせる時期に大切な事柄を教えていただきました。
- 心が軽くなりました。自分の子供の『自立』を目指したいと思います。
- とても興味深い内容でした。また、子供たちがしっかり話を聞いていたことに驚きました。
- 低学年の児童にもわかりやすい話し方、内容でよかったと思います。
- 自分の感情を大切に、子供の感情も受容していくことの大切さを教えてくださり、ありがとうございました。毎日余裕のない自分から、余裕のある人間になりたいと思います。
- 親と子のかかわり方の考え方が変わりました。子供がぐずぐず言っていたりする時、ぐずぐず言わないと言って聞かせていました。先生の話聞いてから、もっと子供の感情を受けとめて本人の心を解いてあげたいです。
- 不快な感情にふたをしないということが印象に残りました。
- 自立についての話がとても参考になりました。思春期の息子に少し寄り添えそうな気がしました。
- 子供に向けての副島先生の伝えたい言葉が聞いてよかったです。ひとつでも子供の心に残ったらありがたいです。
- どんな気持ちも大事にして、子供の声をしっかり受け止めるのが必要だと改めて感じました。
- 普段の子供との接し方について、気付かされることがたくさんありました。自立の意味、とても参考になりました。
- 子供の気持ちも大切、母である自分の気持ちもすごく大切。今しかない子供との時間を大に、感情豊かに毎日を送りたいと思います。